

「ふう〜…ただい…」

「おかえりっ叔父さんっ♥お小遣いちょうだいっ♪」

「ゆんちゃん…」

「数日ぶりに帰ってきたのに
早々にお小遣いって…ダメだよっ!」

「もう使い切っちゃったんだもん」

「ついこの前あげたばかりじゃない!!
それも結構な金額…
ダメだよっ!絶対にダメ!!」

「え〜…いいじゃん
叔父さんのケチいっっ」

おい甥っ子 ジャンキー 中毒 BY 和肌ふぐり

「叔父さん…お仕事大変で最近帰ってこれなかったんだよね…?」

「だいぶイライラ溜まってるんじゃない…?」

「いつもみたいに
ゆんが気持ちよくしてあげる…って言ったたら…?」

「そっそれは…(ゴクッ…)」

ナデ
ナデ

「しょーがないなあ〜…」

ズン
ズン



『ウウツ…』
ゆんちゃん…ッやっぱり…もうこんなことは…ッ』

『ハイハイ♥』

『毎回それ言ってるけど
こんなカチカチにしなから言われても
全然説得力ないから♥』

『もうセエシぶっこかないと
収まりつかないクセに♥』

『ホントは今日だって
ゆんとエッチなことする
つもりだったんでしょ?♥』

『そっ そんなこと…ッ』



『ヨチヨチ♥お仕事いっぱい頑張ってエライエライ♥
溜まったせえし
思いっきりブリブリしまちはーね♥』

『まずはゆっくりゆっくり
先っぽからナデナデしたげるっ♥』

『(うおお…ッ!!)
甥っ子の甘やかし甘々手コキ…ッ
疲れマラにクッソ効くッ…!!』

『先っちょ♥ペロペロ♥
アハッ♥叔父さんホントこれ好きだねっ♥
露骨にチンポ硬くなったよ?♥』

『てゆーか叔父さんもしかして出そうになつてない?
ダメだよ?まだ出したら』

『沢山我慢した方が気持ちいいんだから
ちゃんと我慢しなきゃダメだよ?♥』

『グッ…おおお…ッッ
鈴口まわりだけを
集中してっ…ッ』

「ダ、駄目だ!!
耐えるッ耐えるんだ...ッ!!」
スーハー...

「こんな年下のJS甥っ子に
いいように扱われたら...」

「保護者としての威厳を失うッ
せめて毅然とした態度を...」

「それじゃあ
そろそろ本気でいくからね♡」

「...んっ?」

※腹式呼吸

「うッ...オオツッ!!
とっ突然のオオナホコキキい!!
それは...ッ!!それは駄目え!!
無理ッ!!ムリムリムリイッ!!」

「尿道押しつけてザー汁上がってさちやううッ!!
出ちゃうッ!!お漏らし射精はダメッ!!
叔父としての威厳が...ッ!!
がっ我慢...ッでき...ッ♡」

「ゆんちゃん!!
射精ちやうよお...ッ!!♡」

「うおおおあぁ...ッ♡」

「出るッ!!出る出る射精るッ!!」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」



『ぶあっ……♡
相変わらず叔父さんチヨ……早っ♡(笑)』

『貯めすぎて塊になってるし♡』

『……叔父さん♡』

『ゆんのが気持ち良かったのはわかるけどさ♡』

『もう少し我慢できないとオトナとして恥ずかしいよ?』

『年下の甥っ子にちよっと弄られただけで
すぐお漏らし射精しちゃうとか(笑)』

『ヨウチンポ♡』

『あっ……そっか!』

『こんなだから叔父さん
彼女できないのかもね♡』

『くっ……!!』

『良いように言わせておけば……!!
けど!これで終わりだ!!
こんなことはもう二度と……っ!!』

『ホラっ叔父さん♡いつまでショげてんの?』

『早くこっちでもシよっ♡ゆんのクソ穴マンコハメまくって
叔父さんがザコチンポじゃないところゆんに見せて♡』

『もし叔父さんの嬉しいところ見たら……』

『ゆん、叔父さんのこと見直しちゃうかも……♡』

『あっモチロン追加でお小遣いは貰うけどね♡』

『なっ……っししないよ!』

『もうお終い!ゆんちゃんも早く服を着て自分の部屋にっ……』

『え……?叔父さんのチンポ』

『なんかまた大きくなってきてるけど?』

『そっかあ……しないんだあ……?ザンネンだなく……♡』

『アッ♡♡♡』

「ハアツハアツ……!」

「ハアツハアツ……!」

「アツ♥アツ♥
アツ♥アツ♥」

「あゝあゝ♥」

さっきまではやらないとかカッコつけてたクセに
チヨ〜腰フリまっくっでるしツ♥

「結局ゆんのことハメるの我慢できないんじゃん
甥っ子のカラダお金で買うとか
叔父さんサイテー♥」

「ち、違うっ!」

これで……これで最後だっ!
今回でっ!

あと一回中出しキメたら〜!」

「本当に最後だからっ!

だから大丈夫!!

あと一回だけ……ツ!!

あと一回……ツ!!」

パ
チ
ン
パ

「大体っ!ゆんちゃんがいけないんだ!!
JSなのに自分の叔父に身体買わせるなんてツツ〜!」
「こんなスケベな甥っ子ッ!
ハメない方がどうかしてるじゃないかッ!」

射精るッ♥
中に射精るが♥

「自分だっって中年オヤジに突かれて
トコロテンザル汁を
برانゴさせている
ホモガキのクセにツツ!!」

「僕は悪くないッ!

ゆんちゃんのツ!

ゆんちゃんのせいだツツ!!」

ンポポ♥♥♥

ザーメン♥♥♥
オチンチン♥♥♥

「甥っ子クソ穴マンコの気持ち良さを知っちゃったから…ッ」
「無責任に生ハメ中出しし放題の
オスガキマンコ知っちゃったから…ッ」

「もう今さら普通の女の子なんて…
満足できる訳ないッ」
「ゆんちゃん以外の娘とハメるなんてありえないッッ」

「ゆんちゃんのせいで！
僕はホモでロリコンになっちゃったんだッ！」

「ゆんちゃんが！
オスのクセに可愛くてエッチだからッッ」

「全部ゆんちゃんのせいだッ！
このスケベな甥っ子のッッ」

「僕はッ！僕は悪くないッッ」



『。。。。』

な〜んか
カッコつけたこと言ってたよね〜♡』

ハア

『あれから、まだる日しか経ってないけど〜?』

ハア

『あれが最後じゃなかったんだっけ?♡』

『どーして叔父さん
ゆんの部屋で
お金握りしめながら
チンポ大つきくしてるの〜?♡
サイツッテ〜♡』

『目がキラキラしてて
チンポもバッキバキで。。。
ゆんコソ〜♡♡♡♡♡』

ハア

『お小遣いくれるんなら
また。。。
させてあげようかな。。。♡』

『まさ。。。♡
叔父さんが
カワイソ〜だし。。。』

ハア

『あと。。。一回だけ
ゆんちゃんと。。。ツッ』

『これで。。。これで最後。。。』

『今日。。。今日で最後。。。
だから。。。』

『(めー回。。。)』

HAPPY END

あとがき

この作品『甥っ子中毒』は
以前に破壊大帝先生 主催の合同誌企画の
『シーメール&メス男子合同誌 C's HAVEN3』
にお誘いいただいた際の作品となります。

フォロー様や支援者様から
支援サイト等での公開に関するご要望をいただき
破壊大帝先生 ご本人からも
作品公開へのご許可をいただけたということで
この度、私の支援サイト等で
改めて作品公開をさせていただきました。

ご要望をくださった皆様や
作品公開に対してご快諾いただいた
破壊大帝先生へ
あとがきの場ではございますが
改めてお礼申し上げます。

和肌ふぐり

感謝の
顔射



※当作品の内容、テキスト、画像等の無断転載・使用を固く禁じます。

※Unauthorized reproduction or use of the content, text, images, etc. of this work is strictly prohibited.